

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 広田 照幸

研究課題		戦後日本における教育改革イデオロギーの研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	戦後日本におけるさまざまな時期の教育改革を嚮導したイデオロギーを、社会学的な観点から考察する。具体的には、①「教育と政治」が主題となった1940年代後半～1960年代初頭、②「教育と経済」が主題となった1960年代～70年代、③新自由主義的な改革ビジョンが登場してきた1980年代、④政治構造の変化と経済構造の変化が同時並行で急速に進み、教育改革につながっていった1990年代～現在、の4つの時期に関して、政策決定に関与(ないし抵抗)したアクターの違いに注目しながら、そのイデオロギーの対立構図を整理していく。以上の主題の中で特に今年度力点を入れて検討するのは、1980年代後半から90年代初頭の時期の政治と教育の関係である。思想史・労働運動史と教育史の接点に注目しつつ、幅広く文献を渉猟して検討を進めていく予定である。また、他の時期についても、文書資料の収集・整理のほか、聞き取り調査などを予定している。
	研究の 結果	本年度に深掘りした1980年代後半から90年代初頭の時期の政治と教育の関係については、文書資料の収集・整理のほか、大学改革に関わった人、教育運動に関わった人や教育裁判に関わった人を対象に、聞き取り調査を行った。また、他の時期についても、文書資料の収集・整理のほか、聞き取り調査などをおこなったが、それによって、1980-90年代の教育運動の転調や教育政策の変容についての整理ができた。 これらの作業をふまえながら、①初中等教育の歴史的变化、②大学改革の歴史的变化、③給特法の成立と教員労働の歴史的变化、について、著書と論文をまとめる成果を挙げることができた。
	研究の 考察 ・ 反省	1980-90年代を中心とした教育政策・教育運動の変容について、概観することができるまで研究が進んだけれども、2000年代の改革、特に小泉政権期の教育改革への連続性と断絶性の問題は、まだ不十分な課題として残った。1950年代の保革対立の時期のイデオロギー的対立の構図が実際にどうだったのかをふまえて、それが見直されていく1990年代半ば～後半期の位置づけを再検討していくことが、今後必要である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>〔研究成果物〕 広田照幸『教育改革のやめ方——考える教師、頼れる行政のための視点』岩波書店、2019年9月19日、232頁。 広田照幸『大学論を組み替える』名古屋大学出版会、2019年10月25日、303頁。 広田照幸「なぜ、このような働き方になってしまったのか——給特法の起源と改革の迷走」 内田良・広田照幸・高橋哲・島崎量・斉藤ひでみ『迷走する教員の働き方改革——変形労働時間制を考える』岩波書店、2020年3月4日、18-32頁。</p>	